（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0195200092		
法人名	株式会社　ワークサポート		
事業所名	グループホーム　ほのぼの		
所在地	網走郡津別町字達美209番地2		
自己評価作成日	令和4年11月9日	評価結果市町村受理日	令和5年1月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	u.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195200092-00&Serv

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社　NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

人口約4，200人、高齢化率約46％（2022,9）の小さな町にある唯一の認知症対応型共同生活介護グループホームほのぼの。建物には木のまち津別町の木材がふんだんに使われ広いリビングは吹き抜けとなっておりまるで森林浴のようなここち良さが感じられる。地域の一員として顔が見える施設作りを目指しており町の活動にも積極的に参加している。コロナ禍の中、外出行事は自粛せざる得ない状況ではあるがその分ホーム近辺の散歩やドライブ、ソーシャルディスタンスに配慮しながらのホーム行事・会食・レクリエーション活動を行い楽しみある生活を送っていただけるよう工夫している。また、看取り介護の態勢も整っており令和4年度は2件の看取り介護を行い終の棲家としての役割も担っている。施設は縦型の2ユニットとなっており利用者・職員ともに自由に行き来ができその時々での落ち着ける場所の提供がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

津別町での唯一の「グループホームほのぼの」の母体法人を北見市に置く株式会社ワークサポートに令和元年変更になりましたが、施設長代理や管理者、多くの職員は変更なく運営されています。本年度にはインドネシアから2名の特定技能外国人が入社しています。外国からの新人入社により既存の職員のモチベーションも向上しており以前より更に学習意欲が上がっています。毎月のユニットミーティング時には事業所理念とユニット理念を唱和していますが、外国人2名には母国語に翻訳して唱和出来る様に配慮し共有に努めています。「夢と感動を創造」「介護のプロとしての自覚」「利用者の個人の尊重」「感謝の気持ち」これらを持って社会貢献するとの経営基本理念をもとに、ほのぼの介護理念・ユニット理念を実践しています。新型コロナウイルス感染症の蔓延により行動制限されており、グループホーム内での感染により大きく生活が変わっている中でも、管理者を中心に利用者、家族に寄り添った介護、支援を続け利用者のストレスを和らげるために、グループホーム周辺を散歩したり畑作業や希望の場所を把握し少人数でドライブに出かけています。嘗て住んでいた地区の郵便局や商店、喫茶店へ出かけ懐かしむと同時に記憶が途切れないように取り組んでいます。家族や地域にはホーム通信を発行し近況を伝えており、家族には毎月お手紙で様子をお知らせし状況を見てスクリーン越し面会やライン電話で顔を見ての通話をし喜ばれています。このグループホームが終の棲家としての役割を果たせるよう医療機関とも連携して看取り介護に取り組み利用者、家族に信頼されています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念とユニット独自の理念がありホールに掲示し、毎月のユニットミーティングで全員え唱和を行い職員間で共有しながら利用者に応じた個別ケアが実践できるように取り組んでいる。4月から勤務している特定技能外国人にも母国語での理念があり事業所理念を共有している	笑顔を集めるとの、法人経営理念とグループホーム理念・ユニット理念をホールに掲示しており、毎月の会議の際は唱和しています。インドネシアからの特定技能外国人は理念を母国語に翻訳して理解に努めており、全員が常に意識を共有し実践するように心掛けています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており冬あか清掃を地域の方と一緒に行ったりしている。コロナ禍中、町の催事が中止になるが近隣住民や役場・社協・他の事業所にほのぼの通信を配布し地域との交流に努めている	これまでのように地域の清掃活動や交流は新型コロナウイルス感染症の影響で出来ていませんが、近隣の住宅にほのぼの通信をポスティングしたり、役場、社協に置かして頂き、理解が得られるようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌、ほのぼの通信により日常生活の紹介を行ったり認知症や介護にまつわる記事の載せ理解や支援方法を地域に発信し理解を促している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中で施設内での会議の開催はないが研修や行事・事故防止委員会・感染対策委員会・身体拘束廃止委員会等の取り組みを運営推進委員や家族に書面にて報告し意見を伺いサービス向上に活かしている	コロナ禍であり対面での会議開催は出来ていませんが、2か月毎に現況、活動、研修、事故等の報告を運営推進委員及び全利用者家族に書面で報告し、意見や質問を受けてサービス向上に取り組んでいます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に開催される津別町介護事業者連絡会議に参加。保険者や各事業所と情報交換を行っている。保険者の信頼を得てふるさと協力隊の隊員の受け入れも行っていた	行政担当者とは介護事業連絡会議や報告書提出、研修等で訪問し情報交換を行っています。新型コロナウイルス感染症の感染時にも一緒に対策に取り組み、協力連携しており良好な関係が出来ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し指針を作成している。各ユニットのミーティングの中で内部研修として身体拘束の定義を勉強している。また、ミーティングの中で撤去できるセンサーマットがないかなどを検討する機会があり身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けては、管理者、施設長代理、正職員等で検討委員会を設置して概ね毎月開催しています。現在の介護が適切なのか、言葉遣いが人格を損ねていないかを検証し、結果は毎月のユニット会議で反映させています。また、研修にも取り組み身体拘束の無い介護に努めています。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修の伝達講習を行ったり不適切ケアについても事例を用いながら話し合う機会があり防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者がいる。施設長代理、管理者が市民後見人養成講座を受講しており権利擁護に関する研修にも参加し伝達講習を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族への面談を出来る限り行い不安のない中での入居を目指している。特に今後起こり得る事故リスクや、医療連携・看取りに関する説明を行い同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や意向・満足度についてはユニットミーティングの中で充足されているかを話し合う機会がある。また、ご家族には月１回定期または随時の手紙により意見や希望がないかを伺っている。家族会の設置もある。意見箱が玄関にある	利用者、家族の意見や要望は日常会話や面会時に把握していますが、コロナ禍の現在家族との面会は禁止しており主に電話やラインでの会話になっています。利用者にはストレスを感じさせない感染予防を行ってのドライブや外出、行事を行い希望が反映できるように取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングのや日々の勤務の中で意見や提案を聞く機会があり運営に反映されている	職員との個人面談は管理者により逐次行われ、意見や提案を把握しています。毎月各ユニットでカンファレンスを含め会議が行われその中でも意見を把握し運営に反映するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や業績が多面にわたり反映できるようになっている。有給制度がとりやすい環境となっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの影響から研修は、まだまだ少ない状況と言えるが研修案内を回覧し事業所外の研修には多くの職員が参加できるよう努力している。ZOOMなどのオンライン研修内容も報告書を提出し全員で共有し質の向上に努めている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に参加している。同法人間での交流や勉強会を目的としたブログがある		
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居に対する考えや思いを把握しサービス開始時には、スムーズに安心して以前の暮らしから移行できるようにしている。状況により入居前の見学や体験入居も可能となっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等からの困りごと不安などを受容、共感しながら、こちらからも専門的な意見も述べながら、互いに相談を繰り返し、ゆっくり信頼関係を気付けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に不安や混乱など精神的に不安定な状態にないかをよく観察し、その様子を職員間で共有しながら必要なサービスを見極め適切なケアを提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティケアの考えのもと利用者と職員が一緒になり生活が送れるような関係性がある		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や必要によっては電話での連絡によって利用者の心身状況を説明したり、家族からも情報を聞きながらともに支えていくチームとして関係性を構築に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性が途切れないように本人の馴染みの人，馴染みの物、馴染みの場所を大切にする事の大切さを職員は理解し客人を一緒にもてなし次回への面会に繋げている。個別のドライブにより本人の馴染みの場所に行くこともある。長年通う理美容院への送迎もある	知人友人の訪問はコロナ禍では行われておらず、これまでの馴染みの場所への訪問も出来なくなっていますが、利用者一人ひとりから思い出や訪問希望の場所を把握し、嘗て住んでいた地域の郵便局や商店を少人数で訪問し記憶が途切れないように取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の主体であるホームでの生活がその方にとってストレスがない状態で過ごしていただけるようにその時々の関係性について注視し良好な関係性であるように職員も交わり支援している		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も個人情報の保護を徹底し関係を必要とする利用者または家族とは関係を維持するように努めている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で感じる本人の想い（主訴）を信頼関係を構築しながら聞きだせる様、心がけている。その結果はミーティングでも報告、検討して家族にも協力を求め、その後のケアプランにも反映させている	管理者、職員は利用者の思いを第一に考えており、現在何が優先事項なのか、どの様な生活を望んでいるかを会話の中から把握するように努め、穏やかな暮らしが出来る様に支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークアセスメントで本人・家族または関係者から生活歴や馴染みの物の聞き取りを行うと共に入居後も利用者からも話しを伺い、その情報を職員間で共有し安心して生活できる場の確保に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録される生活記録や申し送り簿に一人ひとりの状態や支援経過・心身状態が書かれており職員間で共有しこれからの支援に活かすことができるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見を取り入れた計画書を作成している。現場の職員の意見やアイディアが取り入れやすいようにユニットミーティングでの話し合いもある。計画書は生活記録にも添付されており実施経過が記入しやすいようになっている	介護計画は基本的に3か月毎に、カンファレンス、モニタリングを経て利用者、家族の要望を反映して作成しています。計画作成者の他、補助の職員がおり、きめの細かい対応を検討しサービス提供を行っています。	毎日の生活記録には多くの記載がありますが、更にケアプラン実施の様子の記載や、ヒヤリハットによる気付き、ケアプランへの反映を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で出た、本人の言葉や表情は、具体的に生活記録に叙述体として残し、職員間で共有し介護計画書の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で外出先に制限はあるが、利用者の外出希望に応えた外出支援など、その都度　新しいニーズに対応できる態勢でいられるよう心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、地域のイベントの参加、交流を計画して参加、受け入れを行っていたが現在、コロナウイルスの影響もあり制限されていたが、今後地域の情報収集を行いながら可能な範囲で出来る交流を検討、模索していく		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望する医療機関への受診の支援があり希望に応じ在宅診療も個別に利用している。医師からご本人へのアドバイスもあり顔が見える医療によりご本人もご家族も安心し生活が送れるよう努めている。かかりつけ医により看取り介護へもスムーズに移行できている	ほとんどの利用者は地元の医療機関をかかりつけ医にしています。基本的には月2回の訪問診療を受けていますが、受診者の状況で全体では、月6回の訪問を受けています。訪問看護事業所との契約で毎月2回健康管理を受けており24時間対応で安心な体制が築かれています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日ﾊﾞｲﾀﾙ測定を行い健康の維持に努めている。何か状態に変化が見られた際には在宅診療の看護師や訪問看護師に報告し医療や看護が適切に受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護添書を作成している。特に行動・心理症状についての情報の提供を行うことで入院時のストレスが最小限のものであるように努めている。また退院にあたっては医療サイドより情報が得られるような関係性がある		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護指針について説明を行っている。希望される利用者や家族が安心して看取り介護を受けられる態勢もある。令和4年度はこれまでに2件の看取り介護を行った。	重度化した場合や終末期については、利用契約時に「看取りに関する介護指針」で説明し理解を得ています。時期が来た時には医師を交えて出来ることの説明を行い再度契約を交わし介護計画を作成して取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍の中で今まで行っていた普通救命講習の講習は受講できていないものの内部研修として救命講習を行い急変時や事故に備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防や防災会社の協力を得て災害時避難誘導訓練を行っている。胆振東部地震の教訓を活かしホームだけでなく地域の住民にも活用していただけるよう発電機を備えている	年2回消防署の指導や防災業者の協力を得て夜間、日中想定で避難訓練を実施しています。かつてのブラックアウトの教訓で発電機を3台導入し対応できるように備えています。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室たトイレの入室の際にはノックを行い入室するようにしている。尊厳を守る声掛けを行うようにしている。プライバシー保護に関する事例や不適切ケアの事例をもとに内部研修を行い利用者の人格の尊重に努めている	利用者一人ひとりの人格を尊重し誇りを損ねない介護に取り組んでいます。入室の際のプライバシーやトイレ利用、入浴の際の羞恥心に気を付けています。会議ではプライバシー保護に関することや個人情報に関すること、言葉遣いを学習し人格の尊重に努めています。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中や生活歴の中からその人らしさを見出せるように配慮している。またその思いをユニットミーティングの中も共有できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな食事の時間や入浴日、入浴時間は決まっている部分はあるが、利用者様のペースや意思は尊重しており、いつでも変更は可能となっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容院に来てもらったり出かけたりしている。希望によりホーム内で白髪染めを行うなど個別での対応も行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好や摂取量・食べやすい形状を把握し調理や摂取、後片付けを一緒に会話を弾ませながら行っている。差し入れの山菜や自家栽培の野菜を収穫や調理をともに行ない食卓に並ぶこともある	食事のメニューは給食班が利用者の好みや希望を考慮して作成しています。近隣住民や家族から野菜等の差し入れがあり共に調理しながら食事を楽しんでいます。コロナ禍以前は一緒の食事でしたが、収束までは別場所で食事をしています。また、行事食を工夫して楽しみな時間を共有しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録には食事の摂取量や水分量の記載があり把握の共有を行っている。食物分類表を用いてバランスの取れたメニューを作成している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前や外出後のうがい手洗いを行っている。舌ブラシや口腔用スポンジを用いるなど個別の対応もある		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入により排泄パターンの把握がある。利用者に応じたケアにより排泄の失敗を軽減し生き生きとした生活を送っていただけるように努めている	一人ひとりの排泄記録を取りパターンを把握して適切な時間の排泄を目指しています。トイレの時間には大きな声での呼びかけはせずプライバシーに配慮した取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を促すために乳製品や食物繊維の多い食材を使用した食事メニューを取り入れたり、体を動かす体操などを行い蠕動運動の促進を行っている。それでも改善が困難な場合は主治医と相談し個々にあった便秘予防に努めている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決まっているが、必ずではなく利用者本人の気分により変更は可能となっている。入浴を保清するだけの目的とせず、リラックスできる場として入浴剤を使用したりなどして入浴支援にあたっている	入浴は身体を清潔に保つためであることは無論のこと、リラックスした時間を過ごすことの出来る機会や思いを把握する機会として捉え、事業所で入浴剤を用意して支援に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中無理のない活動を行うことで生活のリズムを作り安眠につなげるようにしている。安眠に繋がるように温度・湿度・灯り声掛けのトーンなどに気を付けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の処方箋が生活記録に綴られており内服薬の理解に努めている。新しく処方された薬については申し送り等で内服後の状態の注意喚起がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルや・自宅から持ってきた花の手入れを職員と一緒に行うなど楽しみながら張り合いのある生活を送れるように努めている。外出先や行事、入浴後に飲酒を楽しまれる方もいる		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中で日常的な外出は行っていないがホームの外周や近場を散歩したり近郊へのドライブを楽しんでいる。外出自粛期間が長くなりストレスがたまらないようにホーム内での行事食を行っている	新型コロナの影響で思うような外出は出来ませんが、緊急事態宣言解除の際は、利用者、職員で行きたい場所を出し合い、嘗て住んでいた場所の郵便局や商店、喫茶店等を少人数で訪問しストレス解消に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力によて小遣いを自己管理されている方がいる。また、外出先ではご自分で支払うことも行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	長らく会えないことで不安を訴えられる方についてはガラス越しでの面会を行ったり遠方でのご家族には写真つきでの手紙やテレビ電話を行ってもらい近況がわかるように努めている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がくつろぐ居間は開放的な造りになっている。自宅から入居の際に持参した鉢植えなどがあり自宅と同じ雰囲気を作りだしている。季節ごとの飾りつけを利用者と一緒に行っている	玄関正面に事務室があり、廊下、リビングの共用空間はゆったりと配置されています。各ユニットの境界にはビニールシートで遮断され、大型の空気清浄機が設置されてコロナ対策を取っています。季節ごとの飾りをし壁には写真を展示して居心地よく暮らせるように工夫しています。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には長椅子や畳の椅子が置いてあり思い思いの場所でリラックスして過ごせるように工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを出来る限り持参していただき住み替えのダメージを防いでいる。仏壇やソファーなどの家具によりその人らしく居心地良く過ごせるようになっている	各居室にはクローゼットが設置されており、利用者が持参しているベットや椅子、ソファー等の家具を配置しています。冬期間は濡れたタオルで乾燥防止をし快適な生活が出来る様に工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ出来るを行っていただけるように適切に表示を行っている。掴まりやすいように滑り止めを巻き付けたり色をつけて見やすいようにと工夫している		